

報告

海外のアーカイブズ機関等のオンライン会議やウェビナーに参加して

Joining Online Conferences and Webinars held by Oversea Archival Institutions

筒井 弥生
Yayoi Tsutsui

1. はじめに

本稿では2021年1月から2022年9月末までに筆者が参加、または傍聴した海外の会議や受講したウェビナー等について、記録の参照がしやすく、アーカイブズを学ぶ者に身近なものを中心に紹介する。COVID-19の猛威によって、これまでの会議や研究会等のありようが変わった。感染拡大で混乱の中にあった2020年については、国際機関の取組を中心に『記録と史料』誌上に報告した¹⁾。2021年は、災害と資料保存、危機管理といった関心をデジタルプリザベーションなどにも広げ、日本文化に関するものも参加対象としてここに報告する。

2. オンライン会議への参加の方法

オンライン会議の情報は主にSNSを通じて入手したが、一度参加すると、関連の会議についてもメールによる告知がある。リストサーバや国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル²⁾に掲載される情報も有用である。

Zoomでの開催が多くなってきているが、申込方法は英国国立公文書館や米国のミュージアムのイベントのようにeventbrite等を通す場合や会議用プラットフォーム上で開催されることもある。Zoomの機能が向上して、主催者側の設定によっては、チャットの保存、音声テキストの保存が可能な場合もあり、またキャプションや通訳がつくこともあって、それほど参加のハードルは高くない。録画が一般公開される、または参加者のみが後日利用可能となる場合も多い。団体によっては参加証を発行しており、登録アーキビストや認証アーキビストの更新にも資するだろう。

1— 筒井弥生「COVID-19感染拡大に呼応した国際機関のウェビナー等に参加して」『記録と史料』31号、2021年3月。

2— 国立国会図書館、「カレントアウェアネス・ポータル」、<https://current.ndl.go.jp/>（2022年11月23日入手。以下すべてのURLの最終アクセス日は2022年11月23日である。）

当初は無料で参加できたものが、その後のイベントは有料になる場合もある。感染状況の変化で、対面での開催も行なわれている。例えば、2022年9月のICAローマ隔年会合は現地開催のみであった³⁾。ハイブリッド開催は主催者への負担が大きい。今後、オンラインのみの開催、ハイブリッド開催、現地開催というあり方がどのようになっていくかも注目したい。

オンライン会議の効用として、動画によって実際に話す姿を見、声を聞くことができ、これまで本や論文の著者として知っていた方が身近に感じられ、今この分野で活躍している人を知ることもできることが挙げられる。多くの場合、質疑の機会もある。

3. 実際に参加した会議、受講したウェビナーの主なもの

以下に筆者が参加した会議や受講したウェビナーのうち、この報告執筆時点で録画が公開されている、詳しい報告があるなどで、ある程度内容が把握でき、アーカイブズ学徒に資するものを選んで列記する。なお、会議名は筆者による仮訳であり、原題はURLとともに註で示した。丸カッコ内は現地での開催日である。

◇ユネスコ国際連合教育科学文化機関

- ・「第2回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラム」(2021年9月21日～22日)⁴⁾

このフォーラムは報告書表紙等に“From the People of Japan”とあるように日本政府信託基金拠出金(文部科学省拠出ユネスコ信託基金)に拠っている。ユネスコ事務局次長の録画メッセージに続いて、国立公文書館の鎌田薫館長がフランス語で挨拶、日本から東日本大震災に対する取組を報告、ユネスコで活躍する日本人の方々も登壇、またはコーディネートしていた。第1回、第2回をふまえたプロジェクトの最終報告書には日本語仮訳がある⁵⁾。第3回は2022年11月21日～22日に東京で開催された⁶⁾。

- ・「シンポジウム コロナ禍に直面したアフリカのメモリー・インスティテューションの回復力を強めること、そしてその先へ」(2021年9月7日～8日)⁷⁾

3—アーカイブズ記述の専門家グループEGADによるRiC(Records in Contexts)のVer.0.2の紹介セッションや初心者向けワークショップがあり、参加できなかった人のため動画が10月のリソースとして公開された(https://youtu.be/oHG_pupre8w)。

4—UNESCO Digital Library, *Second Memory of the World Global Policy Forum: Disaster Risk Reduction and Management for Sustainable Preservation of Documentary Heritage*, <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000375170.locale=en>

次の報告書を踏まえての開催でもある。UNESCO, *Documentary Heritage at Risk: Policy gaps in digital preservation*, https://en.unesco.org/sites/default/files/documentary_heritage_at_risk_policy_gaps_in_digital_preservation_en.pdf

5—文部科学省、“政策立案と能力開発を通じた記録遺産の保存”、https://www.mext.go.jp/content/220907-mxt_koktou01-000023941_02.pdf

6—ユネスコ、“第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラム”、<https://www.unesco.org/ja/mow-global-policy-forum>

7—UNESCO, *Strengthening the resilience of African memory institutions in the face of Covid-19 and beyond*, <https://events.unesco.org/event?id=2796704781&lang=1033>

アフリカのメモリー・インスティテューションとあったが、実際にはアフリカ、アジア太平洋からの報告で、日本からは立命館大学の矢野桂司氏が講演した。

- ・「グーグル・アート&カルチャー (Google Arts & Culture) で世界の記憶登録を見つける円卓会議」(2022年1月27日)⁸⁾

「教育の国際デー」(1月24日)にグーグル・アート&カルチャー上で、世界の記憶の紹介を始めた。円卓会議の前半でその経緯と実際、後半では具体的な3つの教育用リソース(スマートフォンアプリなど)の報告があった。

◇ブルーシールド国際委員会

- ・「25周年記念パネル：ブルーシールドの創設」(2022年6月6日)⁹⁾

初代委員長カール・ハプスブルグを迎え、1996年6月6日の創設について語り合った。

- ・「25周年記念会議」(2021年12月14日～15日)¹⁰⁾

2日間の会議に先立ち、ティム・スレイド監督の2016年制作の映画『*The Destruction of Memory* (記憶の破壊)』の限定公開があった。

◇国際アーカイブズ評議会 (ICA)

- ・「国際アーカイブズ週間 (IAW) 2021」(2021年6月7日～11日)¹¹⁾

国際アーカイブズ週間には前年に引き続き12のウェビナーが用意された。

- ・「第1回ヴァーチャル会議 知識社会に力を与えること」(2021年10月25日～28日)¹²⁾

延期されたICAアブダビ大会の部分的ヴァーチャル開催で、参加費を必要とした。

- ・「ICAFAN 国立公文書館長フォーラム 関連し続けるために変わることに」(2022年4月5日～7日)¹³⁾

日本からは国立公文書館理事が認証アーキビスト制度について講演した。

◇レコーズとアーカイブズの歴史についての国際会議 (ICHORA)

- ・「ICHORA2022」(2022年7月25日～29日)¹⁴⁾

第10回は英国国立公文書館の主催で、ジェフリー・ヨーのアーカイブズ史¹⁵⁾についての講演ではじまった。感想を述べあう少人数のセッションもあった。英国国立公文書館はこ

8— UNESCO, *Discover the Memory of the World Register on Google Arts and Culture*, <https://en.unesco.org/news/discover-memory-world-register-google-arts-culture>

9— Blue Shield International, *Blue Shield 25th Anniversary, Panel: The Creation of the Blue Shield*, <https://theblueshield.org/panel-the-creation-of-the-blue-shield/>

10— Blue Shield International, *25th anniversary conference*, <https://theblueshield.org/blue-shield-25th-anniversary-conference-online/>

11— ICA, *International Archives Week*, <https://www.ica.org/en/international-archives-week-iaw2022> 各ウェビナーの動画も公開されている。

12— ICA, *Empowering Knowledge Societies*, <https://www.ica.org/en/ica-2021-virtual-conference-empowering-knowledge-societies>

13— ICA, *FAN Virtual Conversations - Changing to stay relevant*, <https://youtu.be/nRkuj2SKZMw?list=P Lru9FNsjTJG4q56gQtH1OMo4Ya6I9nvm4他>

14— The National Archives, *ICHORA2022*, <https://www.nationalarchives.gov.uk/about/our-research-and-academic-collaboration/research-events/ichora-2022/>

15— Geoffrey Yeoの近著に*Record-Making and Record-Keeping in Early Societies*, Routledge (2021) がある。

のほかにも多様なオンラインイベントを開催している。

◇デジタル保存

- デジタル保存連合 (DPC)¹⁶「DPCの20周年を祝うイベント」(2022年2月25日)¹⁷
- オープン・プリザベーション・ファンデーション (OPF)¹⁸「ウェビナー動画や音声のデジタル保存」(2021年12月16日)¹⁹

DPCは、前掲IAWにも参加していた。OPFのウェビナーについては、有料会員は優先的に参加でき、過去の録画も視聴可能である。

◇アメリカアーキビスト協会 (SAA)²⁰

- 「SAAフォーラム：安全にアーカイブズを再開する」(2021年6月3日)²¹
- TPS集団「TPSフェスト」(2022年8月2日～4日)²²

TPS(注22参照)は2019年までSAA大会中に集まっていたが、COVID-19のパンデミック後は拡大したTPS集団としてオンラインでイベントを開催した。

◇カナダアーキビスト協会 (ACA)

- 「ブリティッシュ・コロンビア大学でのACA第13回国際シンポジウム」(2022年4月28～29日)²³

学生のためのシンポジウムであり、世界中の学生に参加を呼びかけている。学生は無料、参加者には録画へのリンクが送付された。

◇米国の機関

- タフト大学同窓会「光と闇のタペストリー：日本の小さなアニメスタジオがどのように世界を変えたか」(2022年4月4日)²⁴

タフト大学教授スーザン・J・ネイピアの講演で、スタジオジブリの宮崎駿作品を中心

16—Digital Preservation Coalition, <https://www.dpconline.org/> なおDPCについては、平野泉「『デジタルをおそれずに』—電子記録の保存に関する2つの取り組み—」『アーカイブズ学研究』33号、2020年12月、渡辺悦子「デジタル保存連合によるデジタル保存スキルの普及にかかる取組について」『アーカイブズ』78号、2020年11月を参照。

17—DPC, *Online celebration of DPC's 20th Anniversary*, <https://www.dpconline.org/events/past-events/dpc-20th-ann>

18—Open Preservation Foundation, <https://openpreservation.org/> なおOPFについては、工藤哲朗「Open Preservation Foundationの概要と活動」『カレントアウェアネス-E』No.355 (E-2063)、2018年10月参照。ウェビナーのいくつかは公開されている (<https://www.youtube.com/user/preservationhub>)。

19—OPF, *Digital Preservation for Moving Image and Sound*, <https://youtu.be/1V4SRpdVLuU>

20—Society of American Archivists, <https://www2.archivists.org/>

21—SAA, *SAA Forum Reopening Archives Safely*, <https://www2.archivists.org/news/2021/saa-forum-reopening-archives-safely>

22—TPSとはTeaching with Primary Sources 一次資料を用いた教育であり、TPS集団については、拙稿「米国の例に学ぶ「一次資料を用いた教育 Teaching with Primary Sources」」『筑波大学アーカイブズ年報』5号、2022年5月で報告している。TPS Collective, *TPS Fest*, <https://tpscollective.org/events-and-opportunities/tps-fest-2022-august-2-3-and-4-2022/>

23—ACA@UBC, *13th Annual International Symposium*, <https://acasymposium.arts.ubc.ca/past-symposiums/2022-symposium/>

24—Taft Alumni, *A Tapestry of Light and Dark: How a Small Japanese Animation Studio Helped to Change World*, <https://youtu.be/hzvi7-CWm3o>

に京都アニメーションなどにも言及した。

- ハーバード大学²⁵⁾

ハーバード美術館、ケネディ・スクールはじめ多くの機関がオンラインイベントを開催している。edXで展開しているオンラインコースは、無料でも受けられる。受講したデジタル・ヒューマニティーズ概論²⁶⁾は有益な内容だった。

- ロサンゼルス保存ネットワークLAPNet「アーティストと小さなアート組織のためのデジタル画像保存」(2022年4月28日)²⁷⁾

写真資料の保存についての講演は人気が高く、質疑応答も活発だった。ネットワーク活動についても参考になる。

上記以外にも、イェール大学やカリフォルニア州立大学、スミソニアン協会、ゲティ研究所などのオンラインイベントに参加した。

◇その他

- 「持続可能なソフトウェアの持続可能性についてのオンラインワークショップ WoSSS21」(2021年10月6日～8日)²⁸⁾

Europeanaで活躍する方々が中心となって運営しており、参加者同士の交流も重視したプログラムだった。Google DocsとSlackを同時進行で用いた。

- 「AICCM 予防SIGオンラインフォーラム2021 変化の要因:10か月間で10の要因」(2021年3月～12月)²⁹⁾

AICCMはオーストラリアの文化財保存の研究所で2021年の3月から12月まで毎月フォーラムを開催した。#1から#8は温湿度から災害までの劣化要因を扱い、#9では“Covid”と題して感染症が国の内外で修復専門家に与える影響を論じた。

4. おわりに

当初は、会議システムもZoom、Webex、Google Meet、Microsoft Teamsなどさまざまあり、配信方式もYouTubeやVimeo、Facebook等の種類があったが、Zoomが一般的になった。そのZoomの機能も進化して、オンライン会議がセミナー形式に、さらにはYouTubeでの配信など参加の方法も多様になった。Zoom会議によっては、Miro、Kahoot!、Mitti、Vatom、Whova、Open DNAなどを併用することもある。

25—Harvard University, <https://www.harvard.edu/>

26—Harvard University, *Introduction to Digital Humanities*, <https://pll.harvard.edu/course/introduction-digital-humanities?delta=0>

27—Los Angeles Preservation Network LAPNet, *Digital Image Preservation for Artists and Small Arts Organizations*, <https://lapnet.org/2022/02/15/digital-image-preservation-for-artists-and-small-arts-organizations-webinar/>

28—WoSSS, *Workshop on Sustainable Software Sustainability 2021*, <https://wosss.org/wosss21/home>

29—AICCM (Australian Institute for the Conservation of Cultural Material), *AICCM Preventive SIG Online Forums 2021 Agents of Change: 10 Agents Over 10 Month*, <https://aiccm.org.au/events-and-webinars/webinars/10-agents-10-months/>

最近、筆者はICAのDカテゴリーデジタル会員になって、様々な情報を得られるようになった。会長らの選挙に投票することもできる。会費は学生であれば年間20ユーロ（2022年）である。そして、ICAもいくつかの専門職団体同様、オンライン・トレーニングを充実させようとしている。

筆者は日頃、国際標準に基づいて目録記述を行っているが、アーキビスト仲間という特別な関係性は会議やウェビナーを通じても培われている。ここに挙げた会議等に関係者以外で日本からの参加者は少なかった。まずは、参加してみたい。